

総務委員会視察報告書

【視 察 日】 令和4年11月1日（火）～2日（水）

【視察委員】 平井 登 委員長、神戸 好伸 副委員長、川島 美希子 委員、池田 博 委員
藪崎 正幸 委員、石井 通春 委員、植田 裕明 委員

【視 察 先】 （1）兵庫県三木市 （2）大阪府和泉市

【調査事項】 令和4年11月1日（火）兵庫県三木市 縁結び課の取組について

①市の概要

三木市は政令指定都市・神戸市の西隣にあることからベッドタウンとして発展して来た経緯がある。人口は、平成9年（1997）10月末に88,232人でピークを迎えたが、その後、若者世代の市外への流出や市全体の出生数の低下などにより人口は継続的に減少、平成27年（2015）1月末では、79,725人とピーク時の平成9年よりも8,500人減少している。面積 176.51k㎡、人口 75,136人。

②取り組みの経緯・内容

先述した人口減少傾向をいち早く捉えた同市は、平成20年度に、「みきで愛（出会い）サポートセンター」を設立し、独身男女の出会いの場の創出やお見合いによる婚活事業に取り組んでおり、その事業を推進するため、平成26年4月「縁結び課」を新設し、現在では、同課に、①婚活支援 ②ふるさと納税 ③移住定住の促進 ④空き家バンクなどの業務遂行、推進を担わせている。

今回主に話を伺った縁結び事業（婚活支援）は、市が委嘱した人生経験豊かな「出会いサポーター」が“仲人役”として在籍しており、相性の良さそうな男女をお見合いにつなげ、その相談に応じている。この取組は、全国TV「行列の出来る法律相談所」やローカルTVにて放映されるなど、“縁結び課”という市役所では奇抜なネーミングで存在をアピールしており、この事業を通じて140組が結婚しており、離婚も0という実績がある。

③今後の課題

- ・事業推進の重要な役割を担っている「サポーター」の高齢化が進んでおり、継続的に事業を実施するためには、「後継者」を育てていくことが課題となっている。
- ・サポーターに対しては、活動費（ガソリン代）や携帯電話の貸与など、最低限の活動費用は支給されているが、今後も熱意を持ったサポーターの“発掘”が課題である。

④本市に反映できると思われる点

- ・本市は「ふじのくに出会いサポートセンター」事業に参画しており、この事業のメリットは年間1万円の会費制のもとで、インターネット上で登録や相手探しが行える利便性と合理性にあると思うが、出会い・結婚という人生の最重要テーマだけに、三木市のように「出会いサポーター」の介在があれば、よりハートフルな縁組に繋がるように思える。
- ・この取組は単にユニークというよりも、非常に先駆的で、新たな社会問題に真剣に取り組む優れた施策といえる。ただ、人なつっこい関西特有の風土や、「関西のおばちゃん」の乗りが功を奏しているようにも感じる。藤枝で同じようなことをして、どれほど効果があるだろうか、という素朴な疑義は少なからず感じる。



【調査事項】 令和4年11月2日（水）大阪府和泉市 新庁舎の建設について

①市の概要

大阪府の西南部に位置し、近年は大阪府のベッドタウンとして発展している。

面積 84.98k m²、人口 184,007 人。

②取り組みの経緯・内容

・和泉市の本庁舎は、昭和33年（1959）に建設され、経年劣化が著しくなったことと、年次にわたり建て増しされた6つの別館の老朽化や耐震性能の不足等があったことから、平成24年（2012）11月に現地建替への方で検討が始まる。同時に市議会の庁舎整備特別委員会が設置される。

市民の関心も強く事業費も莫大になることから翌年以降、耐震改修案や移転建替え案（和泉中央住宅展示場跡地）も浮上し、住民投票などの結果をもとに既存の庁舎での建て替えとなることが決定。

その後、平成29年（2017）4月から6月にかけて、市民の視点から新庁舎に求められる機能について意見交換を行い、参加者で理想の新庁舎を考えていただくためのワークショップを計6回開催。（参加メンバーは、市内21校区代表、障がい者団体連絡協議会代表、防災協会代表や公募市民ら計40名）ワークショップでの意見を汲み取りながら同年6月の「新庁舎整備基本方針」の策定、同12月に「新庁舎整備基本計画」の策定、平成31年（2019）1月に「新庁舎整備基本設計」の策定、同年3月に公募型プロポーザル方式によりデザインビルド事業者（実施設計・施工）を決定した。

令和3年5月に開庁したばかりの新庁舎は、第2種住居地域にあり本館は地上7階建・免震構造鉄骨造一部CFT造。別館（旧3号館）や飲食物物販棟、車庫兼倉庫、立体駐車場などが約13,617 m²の敷地に無駄なく合理的に配されている。また、「市民の安全安心を支える庁舎」、「市民にやさしい利便性の高い庁舎」、「環境にやさしいライフサイクルコストに配慮した庁舎」の3つの基本コンセプトのもと、ユニバーサルデザインを取り入れ“誰もが利用しやすい庁舎”となっている。

③本市に反映できると思われる点

・新庁舎整備に向けた、事前準備や調査（課題の洗い出し）、議会对応、中・長期的な財政試算や議会審議、市民ワークショップの手法、整備基本方針・整備基本計画・整備基本設計等の策定について慎重かつ十分な検討を重ねていることや、課題解決に向けた真摯な交渉と適切な補正予算計上など、市当局と議会、市民、関係事業者が議論を重ねながら、決して焦ることなく整備計画を練り上げ、必要に応じて施工を見直すなど、柔軟な取り組み方には学ぶところが多い。加えて、その都度の情報公開や情報発信の巧みさは、“市民のための新庁舎建設”という目的を如実に示していると感じた。

・駐車場は近くて広い方が良いが、少子高齢化とDX化に応じて窓口に来ない人が多くなることが予想されるなど、長期的な目線で考えた設計をする必要がある。

・施工費をなるべくコストダウンさせて、飽きのこないシンプルなデザインに仕上げた点。

・新庁舎棟は免震構造を採用し、大地震後も構造体の補修を行うことなく建物を使用でき、防災拠点としての機能を確保できる点。また4日分の給水供給を行うため、地下免震ピット内の緊急遮断弁付き水槽に確保した点。

・議場の親子傍聴席や補聴器の設置、電子採決等を採用した点。

・入り口付近が狭く感じたため、もう少しスペースが必要であったと感じる。特に市民が多数来庁する窓口については、大きな待ち合いスペースを設けていただきたい。

